

幼 兒 の 自 由 畫

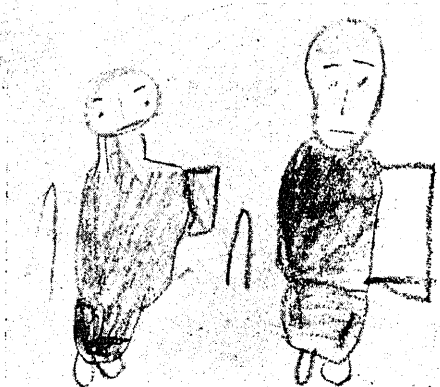
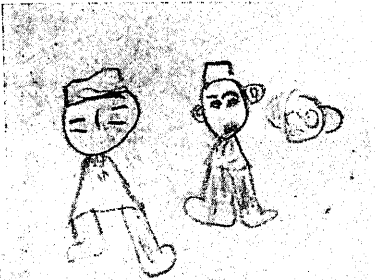
及 川 ふ み

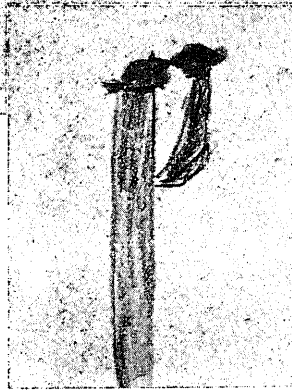
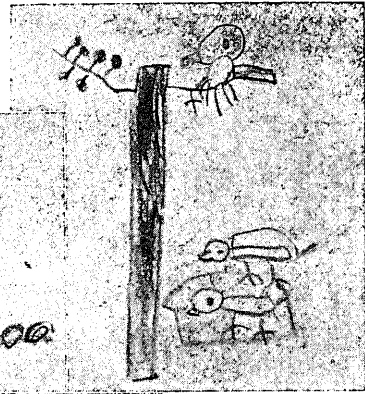
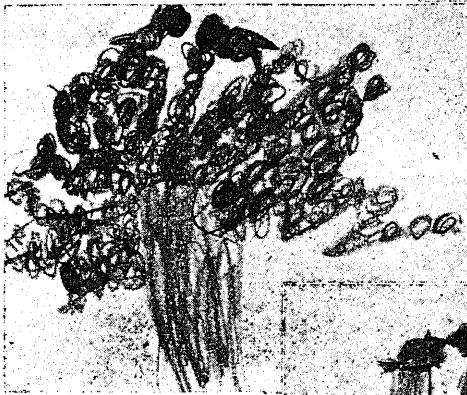
年少組の終りになつて、過去一ヶ年間の幼児の自由畫帖をくりひろげて見た。畫用紙八つ切六十枚一綴の帖面をこの一年間に三冊かき上げた幼児が紙數の多さの上で一番多い方で、一冊の帖面の終り近く畫いてゐるものが一番紙數の少い様である。もつこもこの紙數は日々の出席の様子によつてもちがつてゐる。比較的多く畫く幼児でもお休みが多ければ全體としての分量は少くなつてしまふ。

三冊位使ふものが組の中で數人であると同時に、まだ一冊で間にあつてゐるものも極めてわづかで、組の大多數は二冊が多い様である。

去年の四月、五月の入園當初の頃の自由畫帖をひろげて見るに、形にはつきり残つてゐるものだけに、その進みの様子がは

舌切雀の
お爺さん
お婆さん





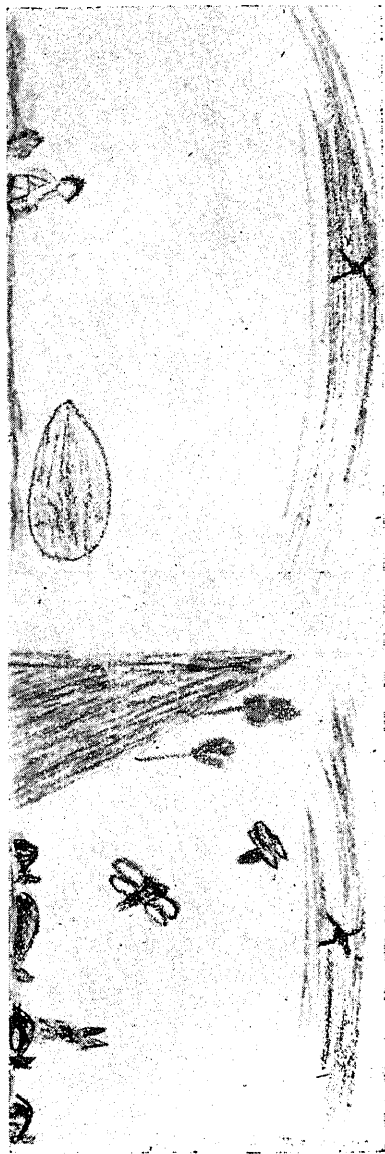
小鳥のおはなし

つきりわかつて面白い。形は勿論のこま、色の區別もつかず、ただ一色或は二色の手當り次第のクレヨンでモチャ／＼かかいてゐた數枚、それからチューリップの花らしく見える花さ葉、電車らしいもの（このチューリップ、電車は幼児の説明を聞くまでもなくそれらしく見える程度のもの）となり、お玉じやくし、汽車、動物、軍艦、兵隊、自動車、なごの題材は主として男兒に多くかゝれるやうになり、お嬢さん、お花、果物、なごの題材は女兒が多く畫く様になる。

概して幼稚園では特別のものをのぞいて、女兒の繪は、畫き方もその題材も男兒には遠く及ばないのが例年の様である。

自由畫は畫き終るさいつも、月日を記入して保育室の一隅に飾つておく。これは幼兒自身の繪の飾られた一つの喜びを受けるためでもあるが、又組のお友達繪をよく観る機会もつくりたい氣持もある。それで時々には保姆が先頭にたつて順々皆の繪を見て歩いて、これは何をかいたのだミか、面白い繪だミか一つ一つについて軽い批評をしながら観

いばはのうら船



いばはのうら船



賞する時もある。又たゞだまつて眺めてゐるさまもある。

たゞこんな場合に形をなさないでモヂヤ／＼の繪なご一二回續けて飾られるご、お母さん達の中にはその繪のまつさに氣がもめて、花だの、リングゴなきの簡單な繪を家庭で教へて、かゝせる人がある。こんな幼児は其の後しばらくは、教へられた繪を忠實にまねて何回もなく得意にかいてお母さんをひそかに満足させてゐるものである。お母さんばかりではない保姆さんの中にもあせり氣味の人や、手まめな人は一寸こんな餘計なごをして幼児の繪を損ねるごがある。幸にも今年の組にはそんなごにはわづらはされなかつた。

幼児の繪はそのわざの功拙は二の次の事であつて、ごごまでも、重心のありのまゝの發表であつてほしいものである。たゞ幼児たちは、事物に對しての經驗が貧弱であるし、觀察の機會も少いから繪の題材のもち合せが僅かであるのは當然である。それでよく何をかくの？ かけないよ、なきいふものもある。こんな幼児はそのまゝにしておくご繪をかく事の興味もなくしてしまふし、又こんなごを云はないまでもたゞ幼児の畫くまゝにまかせて置くごいつも同じものばかり畫く様になる。

自由畫の指導の要點もこんなところから自然さわかつてくる事であるが、幼児たちに畫く材料を、幼児の心の中に

も、眼の前にも充分に與へてやる事である。

時々話す童話の中にも、繪の材料になるところは多くある事であらうし、又觀察にまもなつて保育室の棚の上のせてある鉢植もよい繪の材料である事は勿論である。

幼児の心や眼に映するものに難易の程度のあるごはいふまでもない事であるから、最初はごく／＼簡單な材料をえらんでだれにも出来るごいふたてまへでしたい。

かりにリングゴ、ミカン、チューリップなきの簡單なものであればごく幼稚なものでも、その形、その色なき充分に觀察が出來て、これを繪ごして自分のものごして發表する事が出来る。

幼児が眞の自由畫ごして畫いた外に前にのべた意味あひでかゝせてみた自由畫を参考に、ごごに數葉掲げてみた。

お帖面にはカメ、お玉じやくし、リングゴ、鯉のぼり、お花、舌切雀のおぢいさん、おばあさん、久米川の遠足、運動會、お角力、神武天皇様、因幡の兔、ばくだん三勇士、おひな様なきがある。